

課題名：二戸駅前・石切所地区の商業活性化に関する研究

研究代表者：総合政策学部 教授 倉原宗孝

課題提案者：二戸市産業振興部商工観光流通課

研究メンバー：戸来守和（二戸駅前地区連合町内会）、柴田裕彰（二戸市）

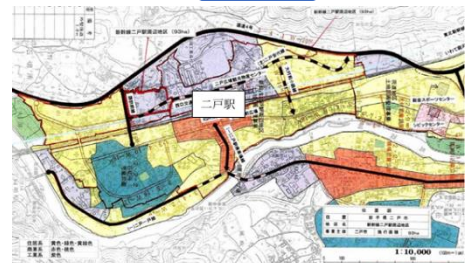
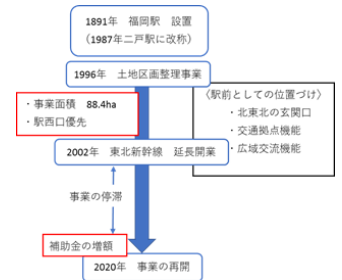
技術キーワード：二戸駅、区画整理事業、県北の玄関、人口減少、地方都市

▼研究の概要（背景・目標）

二戸駅は明治24年に日本鉄道の福岡駅として開業し、岩手県北の交通拠点として古くから機能してきた。平成14年には東北新幹線延伸で新幹線停車駅に、IGRいわて銀河鉄道に移管し、岩手・秋田・青森にまたがる広域観光の要でもある。

この二戸駅周辺地区では東北新幹線開業に合わせた区画整理事業が継続され（施工期間：平成8年度～令和12年度（予定））、西側地区で先行し事業が進められてきたが、今般既成市街地の駅東側に事業が進み、新たな「二戸市の顔」としての駅前広場整備や交通拠点機能強化、地域住民と連携した賑わい創出が求められている。

しかし明確なイメージがないまま工事が先行し、住民サイドでもビジョンを固めきれないまま、区画整理事業の動きに街のイメージが追い付いていない状況である。またかつて商店が立ち並ぶ街並みであったが、現在は後継者不在などからシャッターを閉めた店舗が増加し当該地区の疲弊回避も緊急の課題となっている。その中で二戸駅前地区連合町内会の働きかけにより、若い世代が集い地元を向ける人づくりが結実しつつある。本研究はこうした地元主体の動きを促進するため駅前整備とそれに続くハード・ソフトのビジョンを描き出そうとするものである。

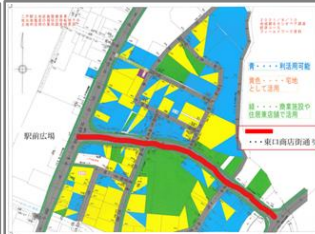


▼研究の内容（方法・経過）

（調査対象）大きくは3つの点から作業、調査に取り組んだ。◎地元市民有志による議論蓄積、◎アンケート等による事業者の意向把握、◎地域内外視点からの住環境評価・提案とそれを題材にした議論、また地元有志によるユニークな祭りの継続実施も内外への情報発信と住民・関係者への意識高揚に貢献している。



共同メンバーの戸来氏を中心に各情報・検討結果のもと有志による熱心な議論が繰り返された。Uターンしてきた者、地元で頑張る者など若い世代の活躍が目される。



事業者の意向調査の結果、事業継続や土地利用の意向が把握された。その上で、利活用可能、宅地として活用、商業施設や住居兼店舗等の状況が把握、確認された。

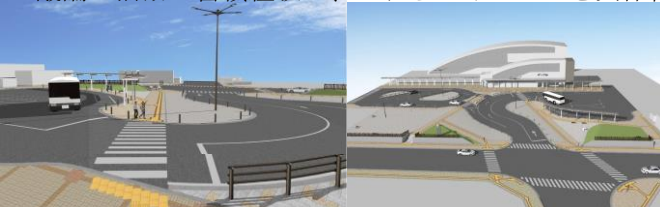


地区外また若い世代からの地区問題、活かすべき素材を発見、提案、地元関係者との検討、地元高校生も参加し活発な意見交換となった。地元で独自に始めた神社への着目と祭り、これまでの住民・関係者の努力・工夫が改めて確認、評価され、現代的魅力や課題も融合し利活用へ期待が広がった。



▼研究の成果

上記各作業を経て今年度において区画整備後の一定のビジョンが描き出された（図）。空間的・視覚的なビジョンが提示されたことで今後の活用イメージや議論活性化に寄与し得る。同時に、住民はじめ各主体・関係者と協力した議論・活動の蓄積経験が、これらのイメージを具体化すると共に有効に活用していく糧になったと思う。



駅整備イメージの一部。駅を出て正面のなだらかな下り坂（写真左）の向こうに賑わい再生を睨む商店街が並ぶ。

区画整理は現在進行形であり状況に応じて修正も必要であろう。これからの課題は空間イメージを共有する中で、そこに展開される暮らしやイベント等を触発、促進させるソフトな仕掛けである。それに向けた活動展開、同時に内外関係者の連携、機運育成をしながら引き続き研究・活動を展開する。

【謝辞】関係皆様の方山のご協力を頂いた。また本研究においては折戸ほたるさんの協力を頂いた。記して感謝したい。